

## 早稲田大学 国際教養学部 英語 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	90分
特徴・その他	試験時間が90分となったので、大問が1つ増えたのが今年の特徴となりそうだ。ただ、5分増えた分としてはちょうどいい問題であろう。会話文問題というのも国際教養学部らしい。今までなかったのが不思議なくらいだ。問題の分量は追加されたIVを除けば昨年並み。難易度は昨年のⅡが評論文であったのが、今年はまた物語風の英文に戻ったので、少し読みにくさが加わったと言えそうだ。一昨年は「物語の2箇所まで～が言及されている」のような選択肢を吟味させる内容不一致問題が出され、該当箇所を探すのが本当に面倒であったが、今年の物語文はそこまで面倒ではない。ただ、論理的に書かれている評論文ではないので、事実関係がどこに書いてあったかを探すのは大変だ。今年も読むべき分量は半端ではなく、時間内に終わらせるのは至難の業だ。Ⅰではパラグラフ要約文の作業をしつつ、内容一致問題や内容不一致問題の選択肢を吟味し、本文の該当箇所を探していくのはやはり相当な時間がかかる。当然だが、早稲田の中でも法学部とともに時間勝負の問題であり、情報処理能力が問われる問題と言えよう。

## 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	長文問題	分量、難易度とも昨年並みと言えるだろう。ただ、下線部の意味を問う問題の選択肢はいわゆる難単語が多かった。昨年はどちらかといえば必須単語に近いものが狙われていたが、今年はいかに類推できるかがポイントとなる。たとえば、2の balance A with B「AをBと釣り合わせる」はAとBが反意語になることが多い。下線部の rectitude は self-interest の反意語ということになる。a scholarly, <u>annotated</u> text that only universities buy は前にある scholarly もヒントだが、前にある形容詞を後ろの形容詞句などがもう少し具体的に述べるパターンがある。ここは後ろもヒントにしよう。内容不一致問題は先に選択肢の中で目立つ表現、特に固有名詞や数字、時間や場所を示す表現、または見たことのないような単語を押さえてから読み進めた方がいい。読んでいる途中でハッと気づくことが素早く解くうえで重要となるからだ。国際教養学部はとにかく情報処理能力を問う傾向が強いと感じさせる。	やや難
II	長文問題	物語文が復活。リードの部分のある内容一致問題は、本文を読み終えたあとでどこに書いてあったかを探すのは大変なので、リードの部分をおらかじめ押さえておいたほうがいいだろう。物語文であり、しかも細かい部分が正誤に関わることが多いので、細心の注意を払って読むしかないが、どこに書いてあったか見つからず、焦ってしまうことが多々あるのではなからうか。今年は空所補充問題ではなく、下線部の意味を問うものが出題された。10題中ほとんど難単語に下線が引かれ、しかも物語文なので前後の論理関係からは解けそうにないものばかりだ。たとえば、A white plastic <u>boom</u> was strung across the harbor entrance, and gulls that looked like white plastic whirled above it.などは最初から読んでいたとしてもまったく類推できそうにない。以前もそうであったが、物語文の下線部はほぼ類推できなくても仕方ないと思えるくらいがいい。これに13の選択肢がある内容一致問題も絡んでくる。Ⅱは本当に時間ばかりかかってもなかなか得点できない大問だ。	難

番号	出題内容	コメント	難易度
Ⅲ	会話文問題	今回初めて出題された会話文問題。選択肢として悩むものもあるだろうが、大半は基本から標準に属すると言える。もしこのタイプの問題が来年度以降も続くのなら、 <b>Could I have your passport?</b> 「パスポートを見せていただけますか?」、 <b>My pleasure.</b> 「(相手の感謝の言葉などに対して)どういたしまして」などの表現をしっかり状況に合わせて覚えていくことが重要だ。	やや易
Ⅳ	大意要約問題	日本語による大意要約で、字数の指定もない。今年は日本人の二重国籍がテーマ。以前法学部の自由英作文問題で出たことのあるテーマだ。早稲田大学の文学部や文化構想学部の英語による要約問題(2017年度から文化構想学部、文学部とも要約問題は出だしが指定されたものに続けて英語を書かせるものに変更)とは違い、一つの段落で構成されていないことが多いことを押さえること。もう一つは、要約問題とはいえ、文学部や文化構想学部の要約問題とは違い、キーセンテンスを中心にするようなまとめ方ではなく、かなりの部分を盛り込むような要約文にするのが国際教養学部の特徴だ。段落ごとに要約するくらいの意識を持つようにするといいだろう。	標準
Ⅴ	自由英作文問題	最近、フェイスブックの年齢制限、子どもが犯罪に対して責任を負わなければならない年齢について、中高一貫がいいか中高別々がいいか、砂糖税の導入の可否、そして今年はビデオゲームをすることがオリンピックのスポーツとして認められるべきかどうかなどがテーマ。年によって <b>a paragraph</b> と書かれていたり書かれていなかったりするが、今年は <b>a paragraph</b> と書かれている。どちらなのかしっかり押さえるようにしよう。また、 <b>appropriate [specific] reasons and examples</b> と書かれていることも例年通り。社会問題について日ごろから考えていないと、なかなか複数の理由と具体例は思いつきにくい。国際教養学部を受験する者なら日ごろからそういう問題に対する自分の意見を持ってほしいということか。字数制限はないが、あまり多く書く余裕はないだろうから、いかに短く簡潔に書けるかが勝負だ。ただ、必ず2つの理由と具体例を書くことを忘れずに!	標準